

児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議（平成30年度第1回）
における主な御発言
（SOSの出し方に関する教育に係る御発言のみ）

- 今までこの協力者会議で取り組んできた自殺予防の教育、委員の先生方が、それぞれいろいろな地域で実践しているようなことがあまり反映されずに、SOSの出し方という言葉だけが出ていることに懸念がある。
- 平成18年に協力者会議が立ち上がり、子供の自殺予防のためにはどうすればいいか意見をまとめてきたが、今回、SOSの出し方に関する教育が突然出てきたという印象が拭えない。
- SOSの出し方に関する教育のコンテンツが明確にされないまま、言葉だけが先行している印象を持つ。他方で、これまでの自殺予防教育と共通する要素もあるので、概念整理を行った上で今後の議論を進めていくべきである。
- 「SOSの出し方に関する教育」を進めておられる方々は、どういう内容を、どういう手法で伝えることを「SOSの出し方に関する教育」と考えているのかということと、本協力者会議として考えてきた自殺予防教育のコンセプトや具体的な進め方を突き合わせて、共通点・相違点をきちんと整理した上でヒアリングを実施してはどうか。
- 本年1月の通知では、「SOSの出し方に関する教育」を少なくとも年1回実施するなど積極的に推進するとあるが、現場としてはカリキュラムの一体どこに、その隙間を見出していくのだろうかと思う。